

## 1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

平均正答率は、全国平均と比べ4.8ポイント高く、都平均と比べると3ポイント高い。学習指導要領の内容ごとに見ると、全ての項目で平均を上回っている。その中で、「書くこと」に関しては、都平均と比べ1.2ポイント低くなっており、課題といえる。

#### 課題

「書くこと」のうち、「問題点と解決方法を書く」設問に関して、無記入が4.8%で、全国や都の平均より少なくなっており、書こうとする姿勢は見られる。しかし、図表やグラフなどから問題点を読み取り、解決方法を自分の考えが伝わるように表現することに課題があるように感じられる。

### 学校で取り組む具体的な改善策

「書くこと」を重点的に指導していく。各単元において、初めにその単元の最終的な活動を明示し、学習活動の流れが分かりやすくなるようにする。また、全児童が意欲的に取り組めるように、ICT機器を活用したり、学習活動を工夫したりする。図表やグラフからどのようなことが読み取れ、どう表現していけばよいのか、丁寧に指導していく。

### 【算数】

#### 状況の分析

平均正答率は、全国平均と比べ7.5ポイント高く、都平均と比べると3ポイント高い。学習指導要領の内容ごとに見ると、どの項目も1.7～4ポイント、都平均を上回っている。正答率をみると、他の項目より「図形」の正答率の落ち込みが大きく、課題といえる。

#### 課題

「図形」のうち、性質を理解しているかの設問に関して、正答率が27.7%と低い。無解答も2.4%と他の設問より高く、理解の定着が課題である。また、記述式の設問に対する無解答も多く、言葉や数を用いて理由を表現することにも課題がみられる。さらに、分配法則を用いた計算では、正答率が都の平均より6.3ポイントも低く、多くの児童が理解できていないと考えられる。

## 学校で取り組む具体的な改善策

火・木曜日の朝学習の時間や、3学期の学習内容である「算数の学習をしあげよう」で、小学校の総復習を行っていく。基礎的な語句の確認、基本的な公式、分数、小数の計算など、全範囲の復習を行う。基礎・基本的な問題を繰り返し解くことで定着を図り、理解を深めさせていく。また、友達と教え合ったり、デジタル機器を活用したりするなど、授業内容を工夫することで、児童が意欲的に学習できる環境を整えていく。

### 【質問紙】

### 状況の分析

### 課題

「朝食を毎日食べている」児童が97.6%、「毎日同じ時間に起きている」児童が96.5%いるなど、規則正しい生活ができている。「人が困っているときは、進んで助ける」と回答した児童が92.8%おり、思いやりの気持ちをもった児童が多い。また、「人の役に立つ人間になりたいと思う」が96.5%と、将来に対して、前向きに考えている児童が多い。

学習に対する意識は高いが、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」、「よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」の項目の数値が比較的低い。また、「今住んでいる地域の行事に参加する」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の項目も低い傾向にあり、物事に取り組む際にやや主体性に欠ける面が見られる。

## 学校等で取り組む具体的な改善策

自尊感情を高める指導を持続し、児童が自分の課題に向き合い、粘り強く挑戦し、振り返りを行い、次につなげていく習慣を身に付けさせる。また、引き続き、各教科の授業では、問題解決的な授業づくりを心がける。そして、問題に対する自分の考えをもち、友達と互いの考えを交流することで理解を深める「主体的・対話的で深い学び」を具現化できるよう指導改善を図り、学習内容を定着させられるようにする。